九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

タイ人学習者向け初級聴解教材開発のための基礎研究

https://doi.org/10.15017/4494591

出版情報：比較社会文化研究. 16, pp.101-116, 2004-10-28. 九州大学大学院比較社会文化研究科
バージョン：
権利関係：

KYUSHU UNIVERSITY

『比較社会文化研究』第16号（2004）101～116
Social and Cultural Studies
No. 16（2004）, pp. 101～116

タイ人学習者向け初級聴解教材開発のための基礎研究

トーンディノック・スカンヤー

はじめに

本稿は、タイ国における日本語教育に関して、コミュニケーションのための技能を構成する四技能---話す・読む・書く・聴く---のうち「聴く技能」の養成方法について考察するものである。

タイは非漢字圏国なので、初期の段階から書く・読むことを中心として指導するのは学習者にとって困難である。さらに、現実的には特種な職業（翻訳家など）に就くか日本に留学する場合をのぞいて、日本語を書くことは実社会においてはまずない。学習者が日本語教師や日本人観光客とやりとりする場合に現実に用いる手段は、直接相手と「会って会話する」ということである。つまり、現実では最も使われる技能は「話す」能力と「聴く」能力である。

このうち、本研究で「話す」技能ではなく「聴く」技能を特に取り上げるのは、「話す」より「聴く」技能のほうが初級段階から優先して訓練する必要があるからである。「聴く」技能（聴解）は4技能の中で特に難しいスキルであり、自分でコントロールできる部分がほとんどないので、心理的な圧迫感も大きい（木村・阪田・窪田・川本1989、石田1988）。学習者の中には、既習語彙・文法などがよくわかっているはずなのに、精神的緊張のため聞き取れない者がいる。このような学習者は放置されてしまうと、中・上級になっても聴解力が伸びない。

しかし、タイにおいては、聴解力については4つの技能の中でも十分に理解されておらず、適切な指導が行われていない。また、聴解教材についても、まだ十分な研究がされておらず、学習に必要な教材の開発が進んでいるとは言えない。

本研究はタイ人学習者に適した聴解力の訓練を行うため、タイにおける日本語初級聴解学習と一般教材の問題点、及びタイで使用されている聴解教材についてそれぞれ分析し、分析の結果に基づいて、タイ人学習者向けに望ましい教材の備えているべき特徴を明らかにし、どのような開発をしていくべきかを探るものである。

第1章　タイの日本語教育の現状

タイの日本語教育の現状を「国際交流基金バンコック日本語センターの2002年7月のDIRECTORY」及び国立国語研究所(2003)『平成13年度日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究/タイ（バンコク）アンケート調査集計結果報告書』より分析する。

1．1　日本語教育機関数・教員数・学習者数

国際交流基金バンコク日本語センターの2002年7月のDIRECTORYによると、2002年の時点では、タイ全国で、日本語教育機関は353機関、教員数は705人、学習者数(学校教育以外を除く)は33,956人である。9年前の1993年の調査結果と比較すると、タイでの教員・学習者数の変化がはっきり分かる。1993年の機関数は108機関、教員数は446人、学習者数は22,152人で、現在の機関数はその3倍以上となっており、教員数・学習者数も大幅に増加している。(表1参照)

表1　日本語教育機関数・教員数・学習者数の変化

日本語教育機関	機関数		教員数		学習者数	
	93年度	02年度	93年度	02年度	93年度	02年度
初等・中等教育	35	187	72	251	4,247	15,184
高等教育	52	124	187	373	10,853	18,772
学校教育以外	21	42	187	81	7,052	N.A
合計	108	353	446	705	22,152	33,956

国際交流基金バンコク日本語センターの2002年7月のDIRECTORYと1993年の国際交流基金日本語国際センターの海外日本語学習数の調査結果より

1．2　日本語教育の学習環境

以下、国立国語研究所(2003)『平成13年度日本語教育の学習環境と学習手段に関する調査研究/タイ（バンコク）アンケート調査集計結果報告書[1]』に基づいて、タイでの日本語教育の学習環境を見てみる。

1．2．1　学習者の特徴

学習者の殆どは日本語を訪問した経験がない（90.9%）。日本の文化や習慣など、日本についての知識（地名や行事やマナーやタブーなど）が少ないため、日本語の訓練を行うときに困難が生ずる可能性が考えられる。

しかし、日本語学習の動機としては「日本語に興味がある」が第一に挙がっている。日本についての知識を工夫して教材に盛り込めば、学習意欲を高める材料となり、訓練に役に立つと思われる。

1．2．2　日本語を使ってのやりとりについて

バンコクにおける学習者の61.2%が授業以外での日本語によるやりとりが「ない」と答えている。授業以外で日本語を使用する場合の相手は「日本語の教師」(43.8%)「学校の友人」(18.3%) が多い。

授業以外での日本語学習に関する機会について見ると、「ある」と答えた学習者は48.3%およそ半数で、多いとは言い難い。

授業以外の実生活の中でのやりとり頻度が高ければ、言語学習の効果も上がる。しかし、海外での学習では実生活の中でのやりとりの機会はあまりない。教材の練習内容はその点を考慮したものである必要がある。

1．2．3　日本語が使われているものとの接触について

バンコクの学習者の殆ど（88．6%）が、「身の回りに日本語が使われているものがあり、授業以外でそれを見聞きしている」と答えている。見聞きするものとしては①テレビ、②ゲームソフト・雑誌③マンガ・音声テープの順である。

それらのものを見聞きしない学習者（582人）について、その理由をみると、「自分の日本語力が十分でないから」が最も多い（62.7%）。

能力が高くない学習者の場合は、生の日本語に接触する機会があっても、そこから情報を得ることや日本語の独習の材料として使うことは難しい。しかし、工夫すれば、生教材として教室で利用することは可能であろう。

1．2．4　教師の特徴

高等教育・学校教育以外ではタイ人教師と日本人教師はほぼ半々である。しかし、中等教育では日本人教師は多くない（16.0%）。

タイ人教師の日本語学習歴は4〜6年が最も多いが、学習歴1年未満で教えている教師も1割程度存在する。日本語教育経験は3〜20年未満の「中堅」が半数以上を占める。「ベテラン（20年以上）」の教師は高等教育機関には23.8%いるが、それ以外の機関ではごく少ない。

1．2．5　授業について

授業で使用されているものは「市販の教科書」以外は「生教材」・「自作プリント教材」である。さらに視聴覚教材（「テープレコーダー」・「ビデオ」）が使用される頻度が高い。タイ人教師は市販の教科書をよく使用する（90.5%）。それに対して、日本人教師は自作教材をよく使用する(94.4%)。

1．2．6　バンコク以外の地域の問題

これまでにみたアンケートは、タイ国バンコク市内で日本語教育を実施している機関における日本語学習者と日本語教師を対象としている。そのため、タイ国全体について把握したものではない。バンコク市内とタイ国内における他地域とでは大きく学習環境が違うと思われる。

地理的な問題について、白鳥(1999)[2] は以下のような問題点を挙げている。

- 日本語の書籍が手に入りにくい
- 日本人教師の居るところがお互いに離れていて会いにくく、情報が入りづらい。
- 日本人、もしくは日本人観光客が近くにいないので、学生が日本語に接し、活用できる場面が少ない。教師以外の生の日本語を聴く機会がない
- 視聴覚教材が入手困難である。
- バンコクで放送している日本語に関するラジオ番組の電波が入らない。

バンコク市内と他地域を比較すると、学習者については、学習者が日本語を使ってのやりとりをする機会が少ない点では共通するが、バンコク市内の学習者は日本語が使われているもの（日本語に関するテレビ・ラジオ番組など）と接触する機会が多いのに対して、地域の学習者はそのような機会が殆どないといえる。また、教師についても、バンコク市内の教師は日本語が使われているものと接触する機会があり、さらに国際交流基金バンコク日本語センターなどを利用する機会があるのに対して、他地域の教師はこのような機会がない。

1．3　日本語聴解訓練の現状

学校教育以外についてはデータが存在していないため、ここは、学校教育に限定し、『タイ国日本語研究会』(2002)[3]、『チュラーロンコーン大学東洋言語学科日本語コース[4]』、

1　このアンケート調査は平成13年12月1日〜21日に行われた。タイ国バンコク市内で日本語教育を実施している機関における日本語学習者と日本語教師を対象とした。分析対象数は学習者5,919名、教師は204名である。

2　白鳥文子「イーサーン日本語教師の会　実践報告」『国際交流基金バンコック日本語センター紀要　第2号』(1999)、47－48頁

3　http://www.geocities.co.jp/Berkeley/8369/pastdata/y02/shiryou1.jpg

『シラパコーン大学東洋言語学科日本語コース』[5]、『カセサート大学人文社会学部日本語コース』[6]、『ウボンラチャターニー大学教養学部日本語コース』[7]、『ナレースワン大学人文社会学部日本語コース』[8]について述べる。

1．3．1　訓練の開始時期と時間数

・ 中等教育機関（後期中等学校、日本の高校に相当）

中等教育機関では、1年次と2年次に、総合的な授業として基礎的な聞き取り、会話、読み、書きの学習を中心に行う。学習時間は週5時間である。3年次には、選択科目として日本語の聴解と会話のクラスが設けられる。学習時間は週100分である。

・ 高等教育機関（国立総合大学、私立総合大学、国立地域総合大学、 TechnicalCollege）

1）日本語学科（主専攻講座）及び副専攻科目として学習する場合

各機関によって日本語の聴解授業の開始時期が異なるが、一般に1年次には総合的な授業として基礎的な聞き取り、会話、読み、書きの学習が行われている。学習時間は週5時間である。2年次から、総合的な授業として聴解＋会話、聴解＋読解のクラスが設けられている。学習時間はそれぞれの機関により、週3～5時間程度である。

2）選択科目として学習する場合

総合的な授業として基礎的な聞き取り、会話、読み、書きの学習が行われる。学習時間は週3時間である。

1．3．2　聴解の教材

現在タイで使用されている聴解教材は自作教材と市販教材である。具体的な自作教材を多くの機関から集めることは難しいので、本稿では市販教材のみについて触れたい。

・ 中等教育機関（後期中等学校、日本の高校に相当）

聴解のみの教材ではないが、標準教科書として、タイの教育省がバンコク日本語センターと共同で高校のための教材開発等のプロジェクトを進めている。『本冊』と、それに付属する『音声テープ』、『ワークブック』があり、『本冊』は授業で使うことを想定して、聞いたり話したりする練習が中心である。『本冊』の中には、聴解部分が存在している。現在は試用の段階である。2004年度には市販版を出版し始める予定である。[9]

・ 高等教育機関（国立総合大学、私立総合大学、国立地域総合大学、TechnicalCollege）

日本語学科（主専攻講座）の場合は、多くの機関で自作音声テープを作成し、ラジオ番組、ニュースから選び、聴解教材として使用している。

副専攻科目・選択科目として学習する場合は、自作音声テープ以外に日本で作成された教材も使用される。以下の2つがある。[10]

① 『楽しく聞こうⅠ　文化初級日本語聴解教材』[11]

② 『初級日本語聴解練習　毎日の聞き取り50日　上』[12]

これらの他に、総合的な教科書に付属した音声テープ教材である③、④が使用されることもある。

③ 『24Task for Basic Modern Japanese Vol. 1 にほんごきいてはなして』[13]

④ 『みんなの日本語　初級Ⅰ』[14]

日本で作成された教材以外に、選択科目として学習する場合はタイで作成された教材『日本語よろしく』[15]も使用される。

以上5種類の聴解教材については、タイ人学習者にとって適切な教材と言えるかどうか、第3章で詳しく分析する。

1．4　求められている教材の特徴

以上に述べた「一般的なタイの日本語教育の現状」、「日本語教育の学習環境」、「日本語聴解訓練の現状」から考えると、求められている教材の特徴として、以下のことが言えるであろう。

① 学習者数が多いことから、授業時間数が不足しがちであるため、独習できるような教材が求められている。

② 学習者がタイで学習していることに配慮し、バンコクのような中心都市だけでなく、地方も含めたタイ全国のタイ人学習者向けの内容を取り入れる教材が求められている。

4　http://www.arts.chula.ac.th/~japan/first.html
5　http://www.arts.su.ac.th/html/course_japan.html
6　http://www.hum.ku.ac.th/human/ba/Foreign/Japanese.htm
7　http://www.la.ubu.ac.th/thai/html/faculty/teach/japan.html
8　三浦多佳史「ナレースワン大学の日本語教育」『国際交流基金バンコック日本語センター紀要　第2号』(1999)、40頁
9　http://www.jpf.go.jp/j/learn_j/voice_j/tounan_asia/thailand/2002/report06-1.html
10　小西広明「タイの高等教育機関における日本語教育」『国際交流基金バンコック日本語センター紀要　第1号』(1998)、33－39頁
http://www.jpf.go.jp/j/urawa/world/kunibetsu/1999/thailand.html
11　文化外国語専門学校『楽しく聞こうⅠ　文化初級日本語聴解教材』(1992) 凡人社
12　宮城幸枝・三井昭子・牧野恵子・柴田正子・太田淑子『初級日本語聴解練習　毎日の聞き取り50日　上』(1998) 凡人社
13　元橋富士子・林さと子『24Task for Basic Modern Japanese Vol.1 にほんごきいてはなして』(1989) The Japan Times
14　『みんなの日本語　初級Ⅰ』(1998) スリーエーネットワーク
15　シーンパッタクン　ワンチャイ・セントーンスック　プラパー・テーチャチョークウィワット　チュララット・Sakai Tomoko(2000)『日本語よろしく』泰日経済技術振興協会付属語学学校

③ 学習者の日本語の学習動機は「日本語に興味があるから」というのが多く見られることから、動機を引き出すため、日本の文化や習慣、社会的な知識を盛り込んだ教材が求められている。

④ 学習者が授業以外で日本語母語話者に接触する機会があまりないため、母語話者と聞く、話す練習をする機会が少ない。この問題点に配慮した聴解教材が求められている。例えば、音声テープは一人や二人の声だけでなく、多数の人の声で作成する必要がある。教師だけの声に慣れることを避け、いろいろな日本人の声、アクセントに慣れるため、バリエーションのある音声による聴解教材が求められている。

⑤ 聴解教材以外にも、視聴覚教材も利用頻度が高いので、映像を提供する教材も求められている。日本語が使われているものと接触することがあまりない地方の問題も考えた聴解教材および視聴覚教材が求められている。

⑥ ベテランではない教師もいるので、使い方の解説なども含んだ使いやすい教材が求められている。

第2章　聴解教材の要件

2．1　聴解の能力の定義

聴解の能力とはどんな能力であるといえるだろうか。木村(1982)と石田(1988)は、聴解に必要な技能について、次のように指摘している。

- 音素識別の能力
- 単語を単語として識別する能力
- 話の中の語句の意味を理解する能力
- 単語と単語との関係によって、文法的な意味を理解する能力
- 文の意味を正確に理解する能力
- 話を聞きながら、文脈を急速に把握する能力
- 話の中の未知の語句の意味を補って理解する能力
- 話の段落ごとに要旨をまとめる能力
- 話を聞きながら、必要な事項を記憶したりメモに取ったりする能力

まとめると、聴解の能力とは、基礎的な聴く技能、つまり、音の識別力だけでなく、単語等の構成要素を識別する力、文法的意味を理解する力はもとより、要旨をつかむなど、情報の価値判断をする力、さらには文脈から予測したり、類推したりする力までを包含する、総合的な能力であると言える。

2．2　素材に求められる特徴

本研究では素材について、「ジャンル」と「内容」の2つに分けて考察する。

まず、「ジャンル」について、竹蓋（1989）は大きく分けて1)日常会話や討論など、2)ニュースや演説など、3)ドラマやニュースショウなどの3分野があると述べている。この中で最も基本となるのは日常会話であろう。サバイバル的会話に加えて、学習者が成人で意見を表したいときもあることを考えれば、討論・論争をsub-genreとして取り上げることが適切だと思われる。また、学習者が日本語を習得するためアルバイトを探すとき面接を受けることもあり、インタビューのようなsub-genreも必要と考えられる。また、問い合わせも現実によく使われ、不可欠である。

上述した2)と3)のテレビ放送やラジオ放送などは、大都市の学習者は、情報を得るためや日本語を習得するために見聞きする機会を持っている。しかし、第1章で述べたように、能力が高くない学習者の場合はそれらを独習の材料として使うことは難しいので、教材として加工して提供した方が適切だと考えられる。

次に、聴解教材の「内容」について、土岐(1987)による背景知識の問題の指摘をもとに、素材に盛り込むべき特徴を考察する。

1．いろいろのタイプの常識

コミュニケーション能力の向上のためには、自然環境に関するものや、その時代の風潮などによるものや、専門分野での基本的な知識に関するものなど、幅広い知識をつける必要がある。

2．日本社会文化の知識

第1章で述べたように、タイ人学習者の学習動機として最も多いのは「日本語に興味があるから」である。また、現実的なコミュニケーションでは日本社会文化についての話題がよくとりあげられる。日本社会文化に関する知識を養うことは、学習者のニーズに沿ったことであり、現実のコミュニケーションを円滑に進める上でも非常に役に立つことである。

3．視覚情報

土岐（1987）は次のように述べている。

何かを見ながら話すことを前提とした談話も少なくない。その場で直接にではなくても、以前見たものを思い浮かべながら行う談話もある。談話を理解するためには、話し手と同じ視覚情報を共有する必要がある。

以上をまとめると、聴解の「内容」には、聴くことに意欲がわくような情報としての価値が高いものを盛り込んだ方がよいということになる。

2．3　練習方法に求められる特徴

練習方法について石田（1988）はミニマル・ペアと視聴覚教材の利用を提言している。

まず、ミニマル・ペアの利用について石田(1988)は「ミ

ニマル・ペアの語を文中に入れて識別させる方が自然な練習ができる。音の識別には母語の影響が強く現れるので、母語別に問題のある対立を選んでテープを用意し、自習させるとよい。」としている。

視聴覚教材の利用について、石田(1988)は「VTR」、「テープ」、「書き取り練習」の3つを挙げている。

まず、「VTR」の使用の手段については次のような手順を挙げている。①内容に応じて導入として、その背景となるもの、固有名詞、述語等などを説明しておく。②導入の後、視聴する予定の部分を視聴する。次に解説を加えながら、数カットずつ視聴する。最後にもう一度通して視聴する。③展開として、視聴後、必要と思われる文型や表現を指定し、必要な練習を加えることやVTRの音声を消し、画面のみを利用して、学習者に画面の説明を口頭でさせることなどのクラス活動をすることが可能である。

「テープ」については、石田（1988）は「短い会話や文の聞き取り」と「長文の聞き取り」の2つを以下のように提言している。

1）短い会話や文の聞き取り
短い会話を聞かせて、内容を聞き取らせる。細部にはこだわらず、全体の主旨が聞き取れたかどうかを確認する。自作であれば、音声的に聞き取りの難しいもの、意味的に難しいものなどなど、要点を押さえた教材を用意する。

2）長文の聞き取り
あまり長い時間利用するのは学習意欲を低下させる恐れがある。VTR教材との併用や自宅学習用に使用する例も多い。

「書き取り練習」については、次のように提言している。

「書き取り練習」は教師が簡単な文を読むレベルから、ニュース番組の書き取りに至るまで易から難へ徐々に段階を上げていく。話し手のスピード、一回に書き取らせる語句の長さを難しさの要素とする。徐々に長くしていく。回数を重ねるにつれて、かなり長い語句が一回で聞き取れるようになる。書き取り後、できるだけ早く正解を与える。

木村・阪田・窪田・川本（1989）もミニマル・ペアを利用した練習と聴写（書き取り）練習の必要性を指摘している。さらに内容理解練習も提言している。練習方法として、次のように述べている。

内容理解練習：

文章を聞かせ、内容について質問する。この場合、周辺的な細かいことよりも思考の流れや基本的な事実関係について質問し、単なる記憶保持のテストにならぬように注意する。質問はたいてい音声によるが、解答の形式はいろいろある。

A　絵・図表・グラフなどを示し、それぞれの中から該当する解答を選ぶ。
B　音声による解答を聞き、印刷された記号の中から該当するものを選ぶ。
C　解答を言う。
D　印刷された解答を読んで、選ぶ
E　解答を書く
F　要約を言う
G　要約を書く

以上に挙げた先行研究に基づいて、タイ人学習者向けの練習方法として何が求められているかについて考えると、以下のようなことが考えられる。

音の識別力、単語等構成要素の識別力を養うため、日本語の音声特徴、特にタイ語には存在せず、比較しにくい音を強調して認識させるべきである。例えば、子音「し」と「ち」、「す」と「つ」、またタイ人にとって聞き分けにくい日本語の拍短音、長音、促音などを初期からミニマルペアを用いた練習として盛り込むべきである。単語のみの練習ではなく、ミニマル・ペアの語を文中に入れて識別させる練習も必要である。また、他の技能とも関連づけ、総合的に練習することも求められる。しかし、タイ人にとって漢字の読み書きは困難であるので、初級段階でのタスクはその点に配慮し、解答は絵や記号を選択すること、または○×をつけること、書かせる場合にはひらがなで書くことを許可する。タスク中の視覚教材の中に漢字で表記されたものがある場合には、ひらがなでルビをつけるなどの処置が必要である。

聴解に必要な技能から考えると、聴解教材の要件はまず、文の構成要素の把握力を高めること、ストラテジーを身に付けさせること、文法的意味を理解する力を高めること、DISCOURSEを把握する力を高めることを目標に、タスクを選択する・作成することが必要である。また他の技能との組み合わせも必要である。

素材としては対話も独話も必要であり、現実でやりとりする機会が少ないことを考慮して、できるだけいろいろなジャンル、多くの内容から組み立てたようなものが必要とされる。

練習方法については簡単なものから難しいものまで段階を設ける。一つの課はまず、単一の技能だけを要するものを聴かせる。次に総合的な技能を要するものを練習させる。形式としては、はじめは「聴いて、絵や記号を選ぶもの」、次に、「聴いて、表記するもの」、最後に「聴いて、話すもの（会話を作ることや意見を出すことなど）」を配置するのが望ましいであろう。

第3章　初級用聴解教材分析

タイで初級用聴解教材を分類すると2種類に大別できる。一つは総合教科書の中に組み込まれたものである。本冊の中の1部分として、聞き取りのため或いは聞き慣れるための技能を養成する聴解部分がある。入門期には発音やかなのテキストも含まれ、テープを利用することにより自習も可能になっている。もう一つは主として聴解技能養成を目的にしたものである。外国人には聴き取りにくい発音の識別練習・会話やスピーチの聞き取り練習用教材などである。

タイで使用されている聴解教材のうち、ここでは総合教科書に組み込まれたものとしてタイで出版された『日本語よろしく』と日本で出版された『みんなの日本語』及び『24 Task for Basic Modern Japanese Vol. 1 にほんごきいてはなして』の3種、聴解技能養成を主たる目的にしたものとして『楽しく聞こうⅠ　文化初級日本語聴解教材』と『初級日本語聴解練習　毎日の聞き取り50日　上』の2つを分析対象とする。

この章では、第2章に述べたタイ人向け素材に求められる特徴・練習方法に求められる特徴と照らし合わせて分析する。

『日本語よろしくⅠ』のタスクでは文型、文法の練習が中心である。つまり、基礎的な聴く技能の中の文法的意味を理解する力を重視し、文法的意味を理解する力を高めるという特徴がある。場面、話題がタイ国内で発生する状況であり、学習者にとって身近で、理解しやすい。しかし、練習をみると文の構成要素の把握力を高めること、ストラテジーを身に付けさせること、DISCOURSEを把握する力を高めることはタスクには盛り込まれていない。つまり、聴解に必要な技能を高めるタスクがないことが分かる。よって聴解教材としては適切ではない。

『みんなの日本語　初級Ⅰ』、『24Task for Basic Modern Japanese Vol. 1 にほんごきいてはなして』、『楽しく聞こうⅠ　文化初級日本語聴解教材』、『初級日本語聴解練習　毎日の聞き取り50日　上』の4種類の教材に共通して評価できるのは、テクスト全体を把握する能力、文脈から推測・類推する能力、他の技能との組み合わせといった、聴解に必要な技能を高める練習を盛り込んでいることである。しかし、初級段階で訓練するべき音の識別技能を高めるタスクが存在していないことと、日本についての常識が盛り込まれていながら、固有名詞の説明が載っていないことが問題点として挙げられよう。内容についても、個人的なものが多く述べられているのに対して、学習者にとって身近な場面・話題（例えば学園内・クラス内での先生とのやりとりなど）が少ない。

ここでは、『初級日本語聴解練習　毎日の聞き取り50日上』を取り上げ、具体的に分析したい。

資料①、②、③は、「第3課」、「第11課」及び「第20課」をとりあげ、それぞれの「学習項目」、「練習の構成」、「解答方式」、「工夫されている点」を表にまとめたものである。「第3課」の学習項目は買い物の表現・数の言い方で、「会話を聞きましょう」には、買い物の会話で聞き取るべき語（値段）が自然に何回か繰り返される。また現実的なもの（レシートなど）を用いており、初級の学習者にとって理解しやすい。「第11課」の学習項目は「～は～が～です構文」で、「基本練習」には、動物についてのクイズで学習者が既に持っている知識を引き出して推測して聞き取る練習である。また「会話を聞きましょう」には、日本の旅館をトピックとして日本についての知識を盛り込んでいる。「第20課」の学習項目は「動詞のない形」で、「会話を聞きましょう」には丁寧体だけでなく、現実的に家族の中で使う普通体も用いている。

「第3課」、「第11課」及び「第20課」のタスクでは、聴解に必要な技能として、文法的意味を理解する力を高めること、DISCOURSEを把握する力を高めることが盛り込まれている。素材は会話及びモノローグである。現物的な素材（レシートや伝言のメモなど）もある。練習方法ははじめに聞いて絵や記号を選択するものがあり、次に聞いて書くものに移行する。つまり、単一の技能だけを要するものを聴かせるのではなく、総合的な技能を要するものも練習させている。

『初級日本語聴解練習　毎日の聞き取り50日　上』には、さらに聴解をたすける絵が各課にある、音声テープが、一人の声だけでなく3～4人の声で録音されバリエーションがあるなどの特徴がある。しかし、トピックについては学習者の現実に身近な教師との会話や学園内での会話などが少ない。日本での場面は多く取り上げられているが、単語、固有名詞の説明が少ないため、海外で学習する人、とくに独習者にとっては理解しにくい。また、モノローグがauthenticではない。例えば、第8課「書きましょう」のタスクは日記が読み上げられ、それを聞き取るというものであるが、日記は個人的なものであり、聞きとるものではない。

わたしは、まいあさ7時に＿＿＿＿＿＿＿＿。そして、
あさごはんを＿＿＿＿＿＿。8時にがっこうへ＿＿＿＿＿＿＿。
じゅぎょうは9時半から3時までです。わたしのせんせいは
＿＿＿＿＿＿＿＿。せんせいです。……

（第8課、P.17）

資料①『初級日本語聴解練習　毎日の聞き取り50日　上』第3課

学習項目	買い物の表現・数の言い方
練習の構成	「基本練習」 ① 短い会話(3−4行) (モデル／音のみ) ② 短い会話(3−4行) (モデル／絵と数字による指示)
	「会話を聞きましょう」 長い会話13行（現物的素材）
	「書きましょう」 モノローグ3−6行 (音のみ)
解答方式	「基本練習」 ① 会話を聞いて、数字を書く。 例 1．男の人はいくら払いましたか。例のように答えを書いてください。 例 200円 ①＿＿＿円 ②＿＿＿円 ③＿＿＿円 スクリプト 1．男の人はいくら払いましたか。例のように答えを書いてください。 例 男：ボールペンをください。 女：はい、これは1本90円、それは200円です。 男：じゃあ、200円のを1本ください。 女：はい、200円のですね。ありがとうございます。 ② 会話を聞いて、絵を選択する。 例 2．例のように正しいほうに○をつけてください。 例 8kg a 10kg ⓑ ① a b スクリプト 2．例のように正しいほうに○をつけてください。 例 A：このみかんを1キロください。 B：えっ、8キロですか。 A：いいえ、1キロです。 ① A：このりんごを六つください。 B：えっ、いくつですか。三つですか。 A：いいえ、六つです。

「会話を聞きましょう」

会話を聞いて数字を書く。

スクリプト

会話を聞いて、レシートに書いてください。

店員：いらっしゃいませ。

リー：こんにちは。みかんをください。これはいくらですか。

店員：ええと、それは1キロ200円、これは300円です。

リー：じゃあ、その300円のを2キロください。

店員：はい、かしこまりました。

リー：すみません、じゃ、このりんごはいくらですか。

店員：それは一つ100円です。

リー：じゃあ、それも四つください。

店員：はい。

店員：はい。おまたせしました。みかんが600円、りんごが400円でちょうど1000円、消費税が50円、全部で1050円です。

リー：はい、それじゃ、1100円。

店員：はい、おつりと、レシートです。どうもありがとうございました。

「書きましょう」

聞いてひらがなで表記する。

スクリプト

会話を聞いて、ひらがなで書いてください。

① A：いらっしゃいませ。

B：このひゃくえんのえんぴつをろっぽんください。

A：はい、ろっぴゃくえんです。

工夫されている点

① 聞き取るべき語が自然に何回か繰り返される。

② 男：ノートをください。

女：はい、これは1冊70円、それは5冊300円です。

男：じゃあ、1冊70円のを8冊ください。それから、この消しゴムを一つください。

女：はい、かしこまりました。消しゴムは50円ですから610円です。

② 現物的な素材が用いられている。

レシート

八百春

98年 4月12日

みかん 600

りんご ＿＿＿

小計 subtotal ＿＿＿

消費税5% tax ＿＿＿

合計 sum total ¥1，050

預かり deposit ¥1，100

おつり change ¥＿＿＿

ありがとうございました

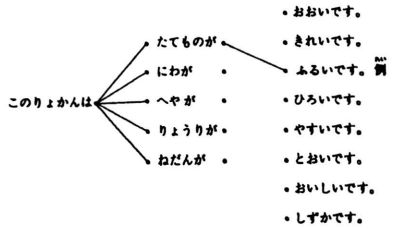
資料②『初級日本語聴解練習　毎日の聞き取り 50 日　上』第 11 課

学習項目	～は～が～です構文・～は～が～できます・じょうずです・わかります
練習の構成	「基本練習」 ① 2つの発話からなる応答 （モデル／絵による指示） ② 単文。 （モデル／絵による指示）
	「会話を聞きましょう」 長い会話 12 行（絵／文字による指示）
	「書きましょう」 モノローグ 7 行 （音のみ）
解答方式	「基本練習」 ①　、②会話、単文を聞いて、絵を選択して記号を書く。 例 スクリプト 1. 会話を聞いて、例のように絵を選んでください。 例　A：キムさんは車の運転ができますか。 B：ええ、できますよ。 ①　A：リーさんはギターが上手ですか。 B：いいえ、あまり上手ではありません。 ②　A：オンさんは漢字が分かりますか。 B：いいえ、ぜんぜん分かりません。 ③　A：タンさんはゴルフができますか。 B：いいえ。でも、スキーがたいへん上手です。 ④　A：ジョンさんは日本語が分かりますか。 B：ええ、よく分かりますよ。 ⑤　A：ユンさんは歯が痛いですか。 B：いいえ、歯は痛くないです。頭が痛いです。

「会話を聞きましょう」

会話を聞いて、読んで、線を書く。

例



ここはどんな旅館ですか。会話を聞いて、例のように線を書いてください。

A：ここですよ。リーさん、これが日本の旅館です。

B：ああ、これが日本の旅館ですか。

A：建物はちょっと古いですが、この旅館はいいですよ。さあ、入りましょう。

B：この旅館は庭が広いですね。木が多いですね。

A：部屋もきれいですよ。

B：ほんとうだ。きれいですねえ。それに、ここは静かですねえ。

A：ええ、駅から少し遠いですが、静かでいいでしょう。リーさん、この旅館は料理もおいしいですよ。

B：いいですね。でも、田中さん、この旅館、値段はどうですか。

A：とても安いです。

B：そうですか。田中さん、わたしはこの旅館が好きになりましたよ。

A：それはよかったですね。

「書きましょう」

聞いてひらがなで表記する。

スクリプト

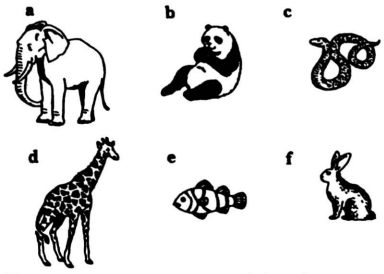
リンさんはまだ日本語（が）よくわかりませんから、毎日、日本語（を）べんきょうします。日本語の授業は3時（に）おわります。それから、レストラン（で）アルバイト（を）します。1週間（に）3回、5時（から）9時（まで）はたらきます。この店（は）料理（が）おいしいですから、いつもお客（で）いっぱいです。

工夫されている点

一般的な常識及び日本についての常識をあげている。

例

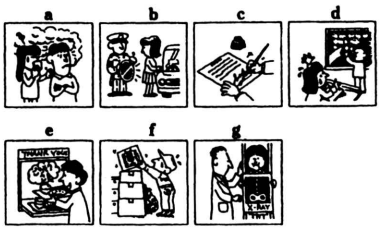
2. クイズをしましょう。わたしは何ですか。例のように選んでください。



例（ a ）①（　　）②（　　）③（　　）

例 わたしは耳が大きいです。
わたしは鼻が長いです。
わたしは体が大きいです。
① わたしは耳が長いです。
わたしは目が赤いです。
わたしは肉は食べません。
② わたしは首が長いです。
わたしは足も長いです。
わたしは足が速いです。
③ わたしは手がありません。
わたしは足もありません。
わたしは体が長いです。

資料③『初級日本語聴解練習　毎日の聞き取り 50 日　上』第 20 課

学習項目	動詞のない形 なければなりません・なくてもいいです・ないほうがいいです
練習の構成	「基本練習」 ① 短い会話(2 行) (モデル／音のみ) ② 短い会話(2 行) (モデル／絵よる指示)
	「会話を聞きましょう」 長い会話 9 行（複数の話からなる文）
	「書きましょう」 単文（音のみ）
解答方式	「基本練習」 ① 会話を聞いて、記号を選択する。 例 1. 男の人はどうしますか。例のようにa・b・cの中から一つ選んで○をつけてください。 例 ⓐ かきません　b.かいます　c.かいません ① a.だしません　b.たちます　c.たちません ② a.おりません　b.おきます　c.おきません ③ a.すいません　b.すみます　c.すみません ④ a.きません　b.きります　c.きりません ⑤ a.かしません　b.かえします　c.かえしません ⑥ a.つくりません　b.つけます　c.つけません スクリプト 1. 男の人はどうしますか。例のようにa・b・cの中から一つ選んで○をつけてください。 例 女：この紙に書かないでください。 男：はい、分かりました。 ① 女：机の上に辞書やノートを出さないでください。 男：はい、分かりました。 ② 女：あしたの朝、早く起きなければなりませんか。 男：ええ、もちろん。 ③ 女：あの、ここでたばこを吸わないでください。 男：あ、失礼しました。 ④ 男：あしたも来なければなりませんか。 女：あしたは来なくてもいいですよ。 ② 会話を聞いて、絵を選択して、記号を書く。 例 2. 短い会話を聞いて、その会話の内容と合っている絵を選んでください。  例（a）①（　）②（　）③（　）④（　）⑤（　）⑥（　）

スクリプト

2．短い会話を聞いて、その会話の内容と合っている絵を選んでください。

例　A：あの、すみません、ここで吸わないでくださいませんか。

B：ああ、どうもすみません。外で吸います。

①　A：もしもし、ここに車を止めないでください。

B：はい、すみません。あの、この辺に駐車場がありますか。

②　A：シャツもぬがなければなりませんか。

B：シャツはぬがなくてもいいですよ。では、とります。息を吸って、はい、止めてください。

③　A：あっ、まだ書いていますから、消さないでください。

B：あっ、ごめんなさい。

④　A：このお皿は片付けなくてもいいですか。

B：いいえ、ここは、セルフサービスですから、自分で片付けなければなりません。

⑤　A：はんこを押さなければなりませんか。

B：いいえ、サインでもいいですよ。

⑥　A：この箱にはガラスのコップが入っています。こわさないでくださいね。

B：はい、じゃあ、いちばん上に置きましょう。

「会話を聞きましょう」

会話を聞いて、内容と合っているものに○を付ける。

スクリプト

妹がお姉さんと話しています。お姉さんは毎日どんなことををしなければなりませんか。後で文を言いますから、会話の内容と合っているものに○をつけてください。

妹：ああ、毎日毎日、実験とレポート。本当に忙しいわ。いいわね。お姉さんはひまで。

姉：とんでもない。主婦もけっこう忙しいのよ。朝は子どもを幼稚園に連れて行かなければならないでしょ。その後は、掃除や洗濯をしなければならない。午後は銀行や郵便局へ行かなければならないし、夕方は買い物や夕食の準備でしょ。犬の散歩にも行かなければならないし…。

妹：でも、夜は少し時間があるでしょ。

姉：夜だってごはんを食べてから、台所を片付けて、子どもをおふろに入れなければならないし、洗濯物にアイロンをかけて、それからがやっと自分の時間ね。

妹：ふうん。主婦も大変なのね。

お姉さんは何をしなければなりませんか。

a．レポートを書かなければなりません。

b．子どもを幼稚園に連れて行かなければなりません。

c．実験をしなければなりません。

d．アイロンをかけなければなりません。

e．買い物をしなければなりません。

f．大学へ行かなければなりません。

g．銀行へ行かなければなりません。

「書きましょう」

聞いてひらがなで表記する。

スクリプト

例　①　A：まだ、この薬を飲まなければなりませんか。

B：もう、熱がありませんから、この薬はのまなくてもいいです。

②　A：部屋の鍵をかけなくてもいいですか。

B：いいえ、この部屋にはたいせつな機械がありますから、鍵をかけなければなりません。

③　A：ここに車を止めてもいいですか。

B：いいえ、家の前ですから車をとめてはいけません。

工夫されている点	**丁寧体だけでなく、現実的に家族の中で使う普通体も述べている。** **例** 妹：ああ、毎日毎日、実験とレポート。本当に忙しいわ。いいわね。お姉さんはひまで。 姉：とんでもない。主婦もけっこう忙しいのよ。朝は子どもを幼稚園に連れて行かなければならないでしょ。その後は、掃除や洗濯をしなければならない。午後は銀行や郵便局へ行かなければならないし、夕方は買い物や夕食の準備でしょ。犬の散歩にも行かなければならないし…。 妹：でも、夜は少し時間があるでしょ。 姉：夜だってごはんを食べてから、台所を片付けて、子どもをおふろに入れなければならないし、洗濯物にアイロンをかけて、それからがやっと自分の時間ね。 妹：ふうん。主婦も大変なのね。

タイで使用されている教材５種類の中では、『初級日本語聴解練習　毎日の聞き取り50日　上』は、単語の意味を理解する能力、文法的な意味を理解する能力、テクスト全体を把握する能力、文脈から推測・類推する能力といった、聴解に必要な技能を高める練習を盛り込んでいること、会話の内容、会話の長さなどの点からいってもっとも適切と考えられる。しかし、上にあげたような欠点もあり、聴解教材に求められる要件を十分に充たすものではない。

第４章　まとめ

４．１　タイ人対象の聴解教材の具体像

初級における聴解活動の目標に合ったタイ人対象の初級聴解教材は次のような特徴を備えているべきであろう。

まず、基礎的聞き方能力の養成訓練を盛り込んだ教材である。具体的にいうと、

① 文の構成要素を把握する力を高めるために、日本語の音声の特徴、特に日本語の拍、促音、短音、長音といったタイ人にとって聞き取りにくい音を提示する。実際のコミュニケーションで使えるために、単語のみの識別だけでなく、文中にミニマルペアの語を入れて識別させることが望ましい。例えば、「おそくなってすみません。じけん（事件）があったんです。」と「おそくなってすみません。じっけん（実験）があったんです。」、「その紙を持ってきてください。」と「その紙を持ってきってください」などである。また、イントネーションについても、初級段階から提示する。

　同じ言葉で発音、イントネーションが違うと意味が違う場合があるので、イントネーションに留意して聞き取る訓練も必要である。

② 初級日本語文型、文法の知識言語を含む。タイ語では助詞や動詞の活用がないため、タイ人にとって難しい。文法を正確に使わなかったせいで誤解が起こる可能性がある。例えば「ペンで書いてください」といわれて「ペンを書いてください」と理解したり、「犬に食べさせました」というべきところで「犬を食べさせました」といってしまうなどの例がある。このような問題点も考慮した練習が必要である。

総合的な能力の養成訓練を盛り込んだ教材としてはつぎのような特徴が必要である。

① わからない語彙があった場合はそれをさしあたり飛ばし、全体的な意味をつかむような推測聴きを指導することは初級聴解教材にも盛り込むべきである。しかし、学習者の知識を養成するために、聴解活動の後、学習者が分からなかった語彙を確認し、説明することも必要である。また独習のため教材の巻末に語彙、表現、文法説明が必要である。

② また、聴くことにおけるトップダウン（聴き手が持つ知識を活用して聴く聴き方）の過程を要求するような活動を提供する教材であることが必要である。学習者の知識を養成するために、既習知識（一般知識・日本についての知識）を引き出し、同時に、新たな知識も提供する。既習知識の引き出し方については、例えば日本人の知り合いに町を案内するような内容やタイ料理、タイの果物、国の動物など大都市の学習者だけでなく、地方の学習者も考慮し、タイの一般知識をトピックとする。同様に会話の中で日本についての知識も登場人物を通して情報交換のような形で提供する。

　また、聴解をたすける知識・情報を得る一つの方法として、日本について知ることができるのインターネットのホームページを提示する。

素材の特徴は以下のように考えられる。

対話も独話も両方求められている。トピック・内容については既に具体的な例を述べた。ここに加えたいことは、学習者の興味をひくものについてである。第１章に述べたように、タイ人学習者の学習動機は①「日本語に興味があるから」②「就職に有利だから」である。この動機に沿い、日本の文化・習慣・社会などをトピックにする。さらに、初級の聴解教材の内容は題材を身近なところから取り、ある一人の主人公の行動や生活を描写する本文を作るのがよいのではないだろうか。タイ人対象の教材は場面・話題・状況についてはタイで行うものとして作成することが求められている。例えば、学習者が日本語でやりとりする相手は主に日本語教師なので、学園内・教室でのアカデミックな話や教室外の日常生活についての話など、学生と先生の会話、また、タイ人と日本人の交換留学生の会話や日本人の観光客との会話などのような場面は学習者にとって身近で、理解しやすく、実際に使えるものとなるだろう。

練習方法の特徴は以下のように考えられる。

第２章に述べたように「ミニマル・ペア」、「視聴覚教材の利用」、「他の技能も含まれた総合的な練習」をとり入れる必要がある。練習構成については簡単なものから難しいものまで段階を設ける。一つの課はまず、単一の技能だけを要するものを聴かせる。次に総合的な技能を要するものを練習させる。形式としては、はじめは「聴いて、絵や記号を選ぶもの」、次に、「聴いて、表記するもの」、最後に「聴いて、話すもの（会話を作ることや意見を出すことなど）」を配置するのが望ましいであろう。しかし、同じクラスでも学習者の能力が違う場合がある。難易度を考慮し、できない学習者には解答する際、文字を書かせず、答えを書く

のに苦労しない○×式か、3肢から4肢の多肢選択式のクイズにする。または、母語で表記することを許可する。よくできる学習者に対しては、聴いて話すことや、聴いて日本語で表記することなど、より困難なタスクを提供する。

難易度の高い練習というと、例えば、文脈による同じ語の意味の違いを把握する練習などである。このような練習は難しいと思われているが、現実のコミュニケーションには必要である。聴いて意味の解釈が間違っていれば、コミュニケーションが失敗する。

タスクの特徴は以下のように考えられる。

① 目的が明確に提示されている。
② 学習者のためのストラテジーを必要とするものである。例えば、redundancyで、重要な部分が自然に何回も出る。
③ 学習者による自主的な展開を許容するものである。
④ 活動のあとその成果が明確に自覚できる。
⑤ 学習者自身による活動に対する評価、フィードバックが保証されているものである。

その他の特徴としては、独習するために、新しい語彙、文法、表現をタイ語で説明することである。また、ベテランではない教師もいるので、使い方の解説なども含んだ使いやすい教材が求められている。音声テープは一人や二人の声だけでなく、多数の人の声で作成する。教師だけの声に慣れることを避け、いろいろな日本人の声、アクセントに慣れるため、バリエーションのある音声による聴解教材である必要がある。

地方での資料が不足についての問題点を解決するために、ビデオのドラマやアニメを使用し、日本・日本語についてのインターネットのホームページをソースとして利用し、日本人教師と協力して現実的な素材を作成・選択するのが望ましい。

4．2　今後の課題

今後の課題は、上述したような特徴に基づいて具体的な教材を作成して実際に使用してみることである。また、今後より深く調査しなければならないのは次のようなことだと考えられる。まず、学習者の興味・動機を引き出し、楽しく勉強できる教材とはどんなものであるか。また、経験や日本語力が十分でない教師のために、使用しやすい教材とはどんなものであるか。さらに、音声テープ以外の他の視聴覚教材の利用法も調査するべきであろう。

（追記：本稿は、2004年01月に九州大学比較社会文化学府に提出した修士論文をまとめ修正したものである。）

【参考文献】

石田敏子（1988）『日本語教授法』大修館書店
岡崎敏雄（1989）『日本語教育の教材』アルク
岡崎眸・岡崎敏雄（2001）『日本語教育における学習の分析とデザイン――言語習得過程の視点から見た日本語教育――』凡人社
木下哲夫（1993）「外国語としての日本語教育における聴解教材の作成とクラスの実施――初級、中級入門期、中級における目標の設定と教材作成、クラスの実施における留意点についての一試案――」防衛大学校紀要人文科学篇第66輯 No.66
木下哲夫（1993）「日本語の聴解教材の作成――初級、中級入門期の教材の問題文の作り方――」防衛大学校紀要人文科学篇第68輯 No.68
木村宗男・阪田雪子・窪田富男・川本喬（1989）『日本語教授法』おうふう
小西広明（1998）「タイの高等教育機関における日本語教育」『国際交流基金バンコック日本語センター紀要　第1号』
白鳥文子（1999）「イーサーン日本語教師の会　実践報告」『国際交流基金バンコック日本語センター紀要　第2号』
竹蓋幸生（1984）『ヒアリングの行動科学――実践的指導と評価への道標――』研究社出版
竹蓋幸生（1989）『ヒアリングの指導システム――効果的な指導と評価の方法―』研究社出版
土岐哲（1987）『聞き方の教育』アルク
本名・岡本編（2000）「――第5章タイの日本語教育：現状と課題――」『アジアにおける日本語教育』三修社
三浦多佳史（1999）「ナレースワン大学の日本語教育」『国際交流基金バンコック日本語センター紀要　第2号』
レベッカ L.オックスフォード著　宍戸通庸・伴紀子訳（1994）『言語学習ストラテジー――外国語教師が知っておかなければならないこと――』凡人社

Gray,Giles Wilkeson and Claude Merton Wise, The Bases of Speech,Harper and Brothers,Publishers, New York,1959.
Rivers,Wilga M.,and Mary S. Temperley,A Practical Guide to the Teaching of English As a Second or Foreign Language, Oxford University Press,New York,1978.
Wongsothorn,A.,Sukamolson,S.,Chimthammit,P.,Noparumpa, P.,and Rattanotayanonth,P.
(1996)National Profiles of Language Education:Thailand,Unpublished Papers.

http://www.arts.chula.ac.th/~japan/first.html
http://www.arts.su.ac.th/html/course_japan.html
http://www.geocities.co.jp/Berkeley/8369/pastdata/y02/shiryou1.jpg
http://www.jpf.go.jp/j/learn_j/voice_j/tounan_asia/thailand/2002/report06-1.html
http://www.jpf.go.jp/j/urawa/world/kunibetsu/1999/thailand.html
http://www.hum.ku.ac.th/human/ba/Foreign/Japanese.html
http://www.la.ubu.ac.th/thai/html/faculty/teach/japan.html

【教材リスト】

シーンパッタクン　ワンチャイ・セントーンスック　プラパー・テーチャチョークウィワット　チュララット・Sakai Tomoko（2000）『日本語よろしく』泰日経済技術振興協会付属語学学校
『みんなの日本語　初級Ⅰ』（1998）スリーエーネットワーク
元橋富士子・林さと子『24Task for Basic Modern Japanese Vol. 1 にほんごきいてはなして』（1989）The Japan Times
文化外国語専門学校『楽しく聞こうⅠ　文化初級日本語聴解教材』（1992）凡人社

宮城幸枝・三井昭子・牧野恵子・柴田正子・太田淑子『初級日本語
聴解練習　毎日の聞き取り50日　上』(1998) 凡人社